

奈良研修旅行 俳句紀行文 十句

作者 高島早苗

(米川先生有難うございました)

- 一 生き生きと話す日焼けの師に感謝
- 二 布留宮に神鶏の声夏木立
- 三 発掘者のはずむ説明風薫る
(中尾山古墳)
- 四 傘をなす古墳に根付く青楓
(高松塚壁画館)
- 五 目覚めたる壁画美人の顔涼し
- 六 草いきれあちこち遺跡巡る旅
- 七 無残なるも巨岩は暑し石舞台
- 八 青葉風大和三山見渡せば
- 九 風邪涼し藤原宮の跡に立つ
- 十 研修後の談笑つづく生ビール



同行のカメラ捕らえし蛙かな



『牽牛子塚は私が見学をお願いしていたところなので楽しみだった。越の集落を抜けて、つま先上がりの通路に入りしばらく行くとそこには真新しい石の構築物が見えた。これまで見てきた牽牛子塚古墳とはまったく違っていた』

『富雄丸山古墳は4世紀後半に築造された円墳である。かなり低いところに「造り出し」がある。そこにあった木棺の上部に鉄剣、その下から中央部が鏡になっている不思議な形状の盾が見つかった。墳丘の北東側の眼下には6世紀の前方後円墳が見つかっている。そして眼をあげてみると若草山と東大寺大仏殿が肉眼で見える。四・六・八世紀が一直線に存在しているのである。』

『箸墓古墳はいつみても印象的である。今回は前方部の右、撥（状）の開きの一部削り取られた地点で説明をうかがった。西の方には前方後円墳イヅカ古墳があった。纏向一帯には勝山、石塚をはじめとして墳丘墓が存在する。その一角に非農耕の区域が出現したのが「纏向遺跡」である。古代史愛好者の一人として想像と推測を許してもらえらるなら、私は在地の豪族たちがここに銅鏡の製作地を立ち上げたのではないかと思う。』

『飛鳥京跡苑池を訪れた。飛鳥川に沿ってアスカが都のとき既に池の庭園があったことが明らかになった。古くから酒船石や斉明（天皇）のたぶれ心の渠とか亀形石など石にまつわる遺物を断片的には知っていたが庭園としては理解できていなかった。この一帯は以前はれんげ畑が美しく、歩いて楽しいところである。』

牽牛子塚古墳



富雄丸山古墳



飛鳥京跡苑池

